

教 科	工業	科目名	情報技術基礎	単位数	2
学 科	機械システム	学 年	1 学年	履修区分	必修
使用教科書	情報技術基礎(実教)				
副教材など					

1. 科目の目的

現代は高度情報化社会といわれ、コンピュータがあらゆる産業の中で利用されている。また、一般家庭においても、コンピュータを組み込んだ電気製品が使われるようになり、われわれの日常生活は、便利で快適になっている。このような中で社会人として活躍するためには、コンピュータにかかわる基礎的な知識と技術を身につけることが不可欠である。そのため、「社会における情報化の進展およびコンピュータの役割を理解するとともに、コンピュータに関する基礎的 技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てること」を目的とする。

2. 授業の内容と進め方

本校では、講義形式により教科書の内容を理解するとともに、実際にパーソナルコンピューターを使って情報技術に関する基礎的な知識と技術を習得させる。

3. 学習する上での留意点

コンピュータの操作法、アプリケーションソフトの利用法、プログラム作成法などの基礎的・基本的な技術を、実際にコンピュータを操作して習得させる。
また、ネットワーク社会における問題点や情報モラルなどについても考えさせる。

4. 課題等について

- 1) 教科書の章末問題、問題集を解答し、提出させる。
- 2) 単元ごとに確認テストを行い、内容の理解度が不足している場合は再テストを行い理解度を深める。

5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評 価 規 準
関心・意欲・態度	日頃の授業においての積極的に発言・発表ができるか、または課題の提出状況などで評価する。
思考・判断・表現	コンピュータを利用した制御技術やマルチメディア、インターネットなどの情報の基本的な知識により具体的な事象に対して適切に判断し創意工夫する能力を評価する。
技 能	コンピュータの操作法、アプリケーションソフト利用法、プログラム作成法などの基礎的・基本的な技術を学び実際に創造・活用する能力を評価する。
知 識 ・ 理 解	各定期考査および実力テストにおいて基礎的な事柄を問う問題でどの程度理解しているかを評価する。

6. 評価の方法

評価については、定期考査の成績を基礎に平常点を考慮して総合的に判断する。

- 1) 定期考査により学習内容の理解度、定着度を評価する。
- 2) 確認テストにより学習内容の理解度、定着度を評価する。
- 3) 定期的にノートを提出させて整理の状況の評価する。
- 4) 授業への取り組み状況(発表, 出席), 学習意欲, 学習態度より学習に取り組む姿勢を評価する。

《指導計画》 科目名 情報技術基礎

1 学年

2 単位

学期	月	学習内容 (単元・考査等)	学習のねらい	評価方法等
一 学 期	4	第2章 コンピュータの基礎 1 データの表し方 2 論理回路の基礎 3 処理装置の構成と動作 4 周辺装置	論理回路、処理装置の構成と動作および周辺装置について取り扱い、ハードウェアに関する基礎的な知識と技術を習得させることを理解させる。 私たちが日常生活で使用している家庭電化製品にはコンピュータが組み込まれている。また、生産工場ではコンピュータを内蔵したロボットが働き、交通機関の座席予約、天気予報、医療診断などに広くコンピュータが利用されている。ここでは、コンピュータの利用例について理解させる。	行動観察
	5			中間考査 ノート検査
	6	第1章 産業社会と情報技術 1 産業社会の変化 2 情報機器とその発展 3 情報モラルとセキュリティ		
	7			期末考査 ノート検査
二 学 期	9	第3章 コンピュータシステム 1 コンピュータシステム 2 コンピュータのハードウェア 3 オペレーティングシステムの基礎	ソフトウェアの基礎であるオペレーティングシステムと市販されている代表的なアプリケーションソフトウェアの基本的な利用方法を理解させる。 マルチメディアの活用、コンピュータ制御およびデータ通信とネットワークについて取り扱い、マルチメディア・制御・通信に関する基礎的な知識を技術を習得させる。	行動観察
	10	4 コンピュータの利用 5 コンピュータネットワーク		中間考査 ノート検査
	11	第6章 情報技術の基礎 1 情報の収集と活用 2 ドキュメンテーションの技法 3 マルチメディアの活用 4 プレゼンテーションの技法		
	12			期末考査 ノート検査
三 学 期	1	第4章 プログラミングの基礎 1 プログラム言語の種類 2 流れ図 3 プログラムの書き方	パーソナルコンピュータは、計算の手順などを記憶する機能をもっているので、計算式などを記憶させ、コンピュータに何回も同じ処理をさせることができる。また、コンピュータで画面に図を描かせたり、表を作成させたりすることもできる。そのためには処理の手順を一定の形式で書いたプログラムをつくる必要があり、C言語を使って理解させる。	行動観察
	2	4 式と計算 5 データの入力と変数 6 分岐のプログラム 7 繰り返しのプログラム		
	3			期末考査 ノート検査